

**製品名: Neuro D (リン酸化Ser274) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05080**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC   |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | リン酸化   |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300 |
| 分子量  | 36kDa                          |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | NEUROD1   |
| 別名           | NEUROD1; BHLHA3; NEUROD; Neurogenic differentiation factor 1; NeuroD; NeuroD1; Class A basic helix-loop-helix protein 3; bHLHa3 |
| 遺伝子 ID       | 4760.0  |
| SwissProt ID | Q13562  |
| 免疫原          | 抗血清は、Ser274 のリン酸化部位周辺のヒト Neuro D 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 240-289   |

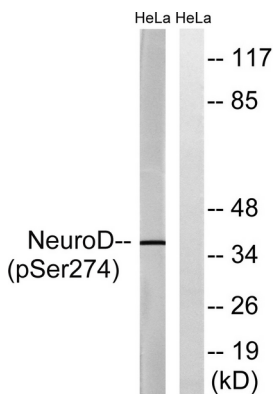
**背景**

この遺伝子は、NeuroDファミリーに属する塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) 転写因子をコードしています。このタンパク質は他の bHLH タンパク質とヘテロ二量体を形成し、E ボックスと呼ばれる特定の DNA 配列を含む遺伝子の転写を活性化します。インスリン遺伝子の発現を調節し、この遺伝子の変異は 2 型糖尿病を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：NEUROD1 の欠陥は、若年発症型 6 型糖尿病 (MODY6) [MIM:606394]の原因です。MODY [MIM:606391]は、常染色体優性遺伝、若年成人期発症、およびインスリン分泌の一次性欠陥を特徴とします。機能：小脳皮質における樹状突起の形態形成と維持に必要な分化因子。転写活性化因子。インスリン遺伝子 E ボックスに結合する。PTM：リン酸化。膵島細胞では、グルコース刺激により Ser-274 がリン酸化され、核局在に必要となる可能性がある。活性化ニューロンでは Ser-335 がリン酸化され、樹状突起の成長を促進する。類似性：1つの塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。サブユニット：効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。TCF3/E47 とヘテロ二量体を形成する。RREB1 と相互作用する。、

## 研究分野

若年成人発症糖尿病;

## 画像データ



UV 15 '処理した HeLa 細胞ライセートの Neuro D (リン酸化 Ser274) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。